

21 seiki kyouiku forum

弘前大学21世紀教育センター

第6号 2011

論文

- 1 1) より良い副専攻制度の探求—国立大学への訪問調査に基づく提案— 田中正弘
- 13 2) 裁判員教育の構想—弘前大学における実践より 飯 考行
- 31 3) 医学科1年次学生に対する、模擬患者によるコミュニケーション実習の試み 加藤博之
- 41 4) 大学に求められるキャリア教育とは何か 小磯重隆
- 49 5) 英語多読の方法と実践：弘前大学における試み 小野寺 進
- 59 6) 大学修了時の質保証 吉岡良雄

講演会及び研究集会の記録

- 67 1) ICED2010に参加して 長南幸安
- 74 2) 第9回(平成22年度)弘前大学FDワークショップ(『21世紀教育センターニュース』より転載)
- 77 3) 弘前大学高大連携シンポジウム
「新学習指導要領に見る「脱ゆとり教育」—理科の学力はどうなるのか—」(『21世紀教育センターニュース』より転載)

その他

- 80 1) 成績評価基準の再考—多様な評価基準のメリット・デメリット—(『21世紀教育センターニュース』より転載)
- 82 2) 平成22年度前期 21世紀教育に関する学生アンケート(『21世紀教育センターニュース』より転載)

刊行・投稿規定・執筆要項

21

s
t

Century
Education
Forum

Vol.6 2011

Center for 21st Century Education Hirosaki University

ARTICLES

- 1 Minor Degree Programmes—Case studies of national universities in Japan— Masahiro TANAKA
- 13 Education to Nurture Qualities of *Saiban-in*: Lessons from the Practice of Hirosaki University
Takayuki II, Shuichi MIYAZAKI, and Kiyoshi HIRANO
- 31 Attempt of Communication Training by Simulated Patients for 1st Grade Medical Students
Hiroyuki KATO, Hideya MATSUTANI, and Hiroshi OSAWA
- 41 The carrier education which is demanded in the university Shigetaka KOISO
- 49 Method and Practice of Extensive Reading: A Case Study at Hirosaki University Susumu ONODERA
- 59 University Bachelor Degree in Quality Assurance of Academic Standard Yoshio YOSHIOKA

CONFERENCE/FACULTY DEVELOPMENT MINUTES

- 67 A Report of ICED2010 Yukiyasu CHOUNAN
- 74 Promoting Active Learning for Actualizing Credit System with Learning Portfolio
(FD Workshop for the 21st Century Education, Hirosaki University)
- 77 Acquisition of University Credits by High School Students
(FD Symposium for the 21st Century Education, Hirosaki University)

OTHER TOPICS

- 80 Assessment of Student Achievement Revisited
(The 21st Century Education Center News, Vol. 16, September 2010)
- 82 The Results of the Student Questionnaire on 21st Century Education
(The 21st Century Education Center News, Vol. 16, September 2010)

『21世紀教育フォーラム』（第6号）

目 次

論 文

- 1) より良い副専攻制度の探求—国立大学への訪問調査に基づく提案—
.....田 中 正 弘 1
- 2) 裁判員教育の構想 —弘前大学における実践より
.....飯 考 行 13
- 3) 医学科1年次学生に対する、模擬患者によるコミュニケーション実習の試み
.....加 藤 博 之 31
- 4) 大学に求められるキャリア教育とは何か
.....小 磯 重 隆 41
- 5) 英語多読の方法と実践：弘前大学における試み
.....小野寺 進 49
- 6) 大学修了時の質保証
.....吉 岡 良 雄 59

講演会及び研究集会の記録

- 1) ICED2010に参加して
.....教育学部理科教育講座 長 南 幸 安 67
- 2) 第9回（平成22年度）弘前大学FDワークショップ
（『21世紀教育センターニュース』より転載） 74
- 3) 弘前大学高大連携シンポジウム「新学習指導要領に見る「脱ゆとり教育」
—理科の学力はどうなるのか—
（『21世紀教育センターニュース』より転載） 77

その他

- 1) 成績評価基準の再考—多様な評価基準のメリット・デメリット—
（『21世紀教育センターニュース』より転載） 80
- 2) 平成22年度前期 21世紀教育に関する学生アンケート
（『21世紀教育センターニュース』より転載） 82

刊行・投稿規定・執筆要項..... 84

『21世紀教育フォーラム』刊行及び投稿規定

1. 本『フォーラム』は、高等教育に関する実践的・学術的研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として年1回、3月末とする。
3. 原稿の締切は概ね1月上旬とする。
4. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
5. 各論文の長さは図表等を含めて、400字詰め原稿用紙に換算して50枚以内とする。
6. 原稿の作成に際しては所定の執筆要項（別掲）に従うものとする。
7. 翻訳・書評・提言に関しては編集委員会で決める。
8. 校正は原則として著者が行い、3校までとする。
9. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出る。経費は著者負担とする。
10. 本『フォーラム』に掲載される内容は、センターのホームページで公開される。

この規定は、平成17年11月から施行する。

『21世紀教育フォーラム』執筆要項

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。原稿は3部提出する（3部のうち2部はコピーでかまわない）。なお、ワードプロセッサ等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したフロッピーディスク等を添付することが望ましい。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。
3. 本文の前に要旨（Abstract）及びキーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当箇所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また、単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入箇所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真を含む。白黒のみ）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することを避け、原則としてひとつずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるような明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては所定の「投稿申込書」を添付し、編集委員に確認を受ける。

『21世紀教育フォーラム』編集委員会

編集委員長 田中正弘 (21世紀教育センター高等教育研究開発室)
編集委員 大高明史 (教育学部)
齊藤利男 (教育学部)
菅野幸宏 (教育学部)

編集後記

『21世紀教育フォーラム』(第6号)を発刊することができました。本号には、計6本の論文を掲載しています。そして、これらの論文が扱う分野は、法学・医学・語学・工学・教育学と多岐にわたり、充実した内容になっています。具体的には、例えば、飯・宮崎・平野の論文「裁判員教育の構想—弘前大学における実践より」では、平成22年度「弘前大学教育改革プロジェクト」(通称：弘前大学GP)に採択された取組「裁判員教育から創る！学士力と社会貢献能力」の成果、及び自己省察が実証的に記述されており、教育改革のPDCAの一環(Check機能)として、本号が活用されている点は、大変望ましいことです。同様に、加藤・松谷・大沢の論文「医学科1年次学生に対する、模擬患者によるコミュニケーション実習の試み」でも、医師に必要なコミュニケーション能力の伸長を目的とした新たな試みに対する自己分析が詳細になされています。

本号が、本学や他大学の教育改善・質保証に少しでも役立つのであれば、これほど喜ばしいことはありません。

(田中正弘)

『21世紀教育フォーラム』第6号

発行	弘前大学21世紀教育センター
編集	『21世紀教育フォーラム』編集委員会
連絡先(編集委員長)	〒036-8560 青森県弘前市文京町1 21世紀教育センター高等教育研究開発室 田中正弘 電話：0172-39-3920 E-Mail: masatana@cc.hirosaki-u.ac.jp
発行年月日	2011年3月31日
印刷・製本	やまと印刷株式会社
